

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	大國 康夫	法人・ 事業所 の特徴	10の基本ケアを柱とし、ご本人が住み慣れた地域で最期まで、その人らしく生活出来るよう支援しています。事業所としても、本人や家族のニーズを聞き取り柔軟なサービスを組み立てながら、暮らしを支えられるよう取り組んでいます。
事業所名	あすならホーム東生駒	管理者	吉田 いずみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	5人	1人	人	14人	人	23人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	定期的な学習会は継続し実施する。東生駒の事業所周辺の地域の方にも参加して頂き、当事業所を知ってもらえるよう働きかける。	菜畑・東生駒にて定期的な学習会を、半年に1回行えた。	学習会を行う事は出来たが、事業所近隣の方の参加がまだ少ない。地域密着型の事業所として、もっと認知してもらう必要がある。	学習会開催の呼びかけから、もっと地域に出向き声をかけていきたい。
B. 事業所のしつらえ・環境	今年度の振り返りを行い、来年度の事業所の取り組みにのちに入れ、よりよい環境づくりを目指して実施していく。	今年度の事業所の取り組み改革の中にも、5S活動の実施を取り入れ、職員全体で意識しながら行えた。	自主的な行動も見られるようになった。	次年度も、感染症対策は継続して行っていく、且つよりよい環境づくりを行っていく為、5S活動は継続して取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の活動を知り、with コロナの中でも関わりを増やす。ご利用者も町内に外出し、職員・利用者共に地域と関わりを持つ。	コロナも5類となり、利用者さんも地域に出る事が増えた。まだ、自治会の行事等への参加までは至っていないが、町内に出かける機会は増やすことが出来た。	事業所の外へ出る事はあっても、地域の方が事業所に来るであったり地域の行事等への参加はまだ少ない。	サロン活動の再開を目標とし、まずは地域の方との関わり(繋がり)をどのようにしていくか、事業所で話し合いながら具体化したい。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	各連携機関との繋がりを大切に、お互い顔を合わせながらの関係性を作り、地域の方・利用者が住みよい環境を作る。	各機関に出向く事が出来なかった。地域にも出向けていない。今までの地域の方で、顔なじみの方とのつながりは絶えないように取り組んだ。	もっと地域に出向き、地域の方との関係をつくれる取り組みを行いたい、具体的な計画がないままだった。	地域密着型の事業所として、地域の活動にも利用者の皆さんと参加していきたい。
E. 運営推進会議を活かした取組み	コロナの状況を見ながら、リモートでも会議の開催を続ける。もっと、ご利用者・ご家族にも参加してもらい、家族同士も話が出来るきっかけを作る。	2カ月に1回、リモート以外にも対面で実施出来た。ご家族にも定期的に声をかけ参加してもらえた。	もっと多くのご家族に参加してもらい、家族同士の関わりの方もつくれたら尚いい。	仕事の都合等もあり、1度に多くの参加は難しいと思うが、多くのご家族に参加してもらえるよう取り組む。
F. 事業所の防災・災害対策	事業所のBCP計画を把握し、地域の防災活動も知りながら、お互いに協力し合えるよう、災害時の事業所の在り方を知ってもらう。	BCP計画を作成する事しかできなかった。定期的な防災訓練は行えた。	BCP計画を作成はしても、徐行書の職員全体での把握にまで至っていない。BCP計画とは・・・の説明から必要。	BCP計画の必要性を職員で共有し、次年度も訓練から振り返りを行い災害に備える。